

「自分を見つめる」

「仏道をならふといふは、自己をならふなり。自己をならふといふは、自己をわするるなり。自己をわするるといふは、万法に証せらるるなり。万法に証せらるるといふは、自己の身心および他己の身心をして脱落せしむるなり。」

『正法眼蔵』 「現成公案（げんじょうこうあん）」卷

仏道をならうこととは、自己をならうことである。自己をならうこととは、自己へのとらわれを忘れることである。自己へのとらわれを忘れることとは、一切の物事によって（自己を）明らかにされることである。一切の物事によって（自己を）明らかにされることとは、自己の身と心、他人の身と心を、自由の境地にさせることである。

仏道を学ぶことを、他人事として捉えるのではなく、常に自らのこととして学ぶ必要があるとのお示しです。ただし、自ら自身へのとらわれは手放す必要があります。そうすれば、この世界全体を貫く仏道の道理のままに生きるようになります。

令和七年一月三十日

加茂法話会

寒河江文洋